

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年11月4日
【四半期会計期間】	第47期第2四半期（自平成26年7月1日至平成26年9月30日）
【会社名】	大研医器株式会社
【英訳名】	DAIKEN MEDICAL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 圭一
【本店の所在の場所】	大阪府中央区道修町三丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル14階
【電話番号】	06 - 6231 - 9917
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 水口 隆則
【最寄りの連絡場所】	大阪府中央区道修町三丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル14階
【電話番号】	06 - 6231 - 9917
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 水口 隆則
【縦覧に供する場所】	大研医器株式会社東京支店 （東京都千代田区東神田二丁目4番5号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第2四半期 累計期間	第47期 第2四半期 累計期間	第46期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	3,683,187	3,953,141	7,635,801
経常利益 (千円)	677,857	780,212	1,401,333
四半期(当期)純利益 (千円)	436,192	521,154	881,497
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	495,875	495,875	495,875
発行済株式総数 (株)	15,920,000	15,920,000	15,920,000
純資産額 (千円)	5,218,015	5,868,520	5,501,809
総資産額 (千円)	7,844,566	8,423,125	8,233,182
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	28.96	34.38	58.37
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	28.73	34.28	57.99
1株当たり配当額 (円)	11.75	12.00	24.00
自己資本比率 (%)	66.5	69.6	66.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	404,129	280,103	995,060
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	99,171	124,430	157,368
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	301,331	89,306	788,644
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,914,846	2,026,634	1,960,267

回次	第46期 第2四半期会計期間	第47期 第2四半期会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	15.77	18.63

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、四半期連結累計(会計)期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による積極的な金融・経済政策により、引き続き緩やかな景気回復基調にあります。しかしながら、消費税増税に伴う駆け込み需要の長期化、新興国をはじめとした景気の下振れリスクなどを背景に、依然として先行き不透明な状況が続いております。

また、医療機器を取り巻く事業環境は、高齢化による需要の増加に加えて、院内感染や医療事故防止のための医療用消耗品は、ニーズが底堅く、国内外で需要拡大が続いております。

さらに、医療機器産業はわが国の経済成長に寄与し得る産業として期待され、「健康・医療戦略推進法」及び「独立行政法人日本医療研究開発機構法」の公布、保険外併用療養費制度の拡大推進を促す規制緩和の取り組み等により、国内医療機器産業の発展を促す環境は整いつつあります。

しかしながら、平成26年11月に施行される改正薬事法により規制緩和が進み、国内外の異業種からの新規参入や既存メーカーの新分野への積極的な取り組みなど、他メーカーとの競争が予想されます。また、製造販売業者に対し、製造販売後の安全体制の一層の充実・強化、市場に対する責任の明確化を要求され、引き続き業界を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は、高品質製品の常時安定供給を優先事項と掲げ、ユーザーと密着した営業活動の推進、品質を確保しながらもコスト競争力をもった生産体制の構築並びに高度先進医療分野への研究開発活動の強化に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の経営成績の分析は次のとおりであります。

売上高

売上高は3,953百万円（前年同期比7.3%増）となりました。これは、主力の吸引器関連において病棟用の吸引器であるキューインポット及び注入器関連において特定保険医療材料である新型PCAセットが好調に推移したこと等によるものです。

営業利益

営業利益は778百万円（前年同期比16.0%増）となりました。これは、主として売上の拡大により売上総利益が増加したこと等によるものです。

経常利益

経常利益は780百万円（前年同期比15.1%増）となりました。これは、主として営業利益が増加したこと等によるものです。

四半期純利益

四半期純利益は521百万円（前年同期比19.5%増）となりました。これは、主として経常利益が増加したこと等によるものです。

(2) 財政状態の分析

資産

流動資産は前事業年度末に比べて、194百万円増加し5,860百万円となりました。これは、主として製品が76百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が155百万円、現金及び預金が66百万円、原材料が29百万円増加したこと等によるものです。

固定資産は前事業年度末に比べて4百万円減少し2,562百万円となりました。これは、主として無形固定資産の減価償却費が新規取得を上回ったことにより7百万円減少したこと等によるものです。

負債

流動負債は前事業年度末に比べて、36百万円減少し2,414百万円となりました。これは、主として短期借入金が240百万円増加したものの、未払金（流動負債「その他」）が238百万円、1年内返済予定の長期借入金が50百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

固定負債は前事業年度末に比べて、140百万円減少し140百万円となりました。これは、主として長期借入金が121百万円、長期未払金（固定負債「その他」）が17百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産

純資産は前事業年度末に比べて、366百万円増加し5,868百万円となりました。これは、主として繰越利益剰余金が剰余金の配当により185百万円減少したものの、四半期純利益を521百万円計上したこと等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べて、66百万円増加し2,026百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により取得した資金は280百万円（前年同期比124百万円減）となりました。これは、主として税引前四半期純利益を777百万円、減価償却費を73百万円それぞれ計上し、たな卸資産の減少が46百万円、賞与引当金の増加が24百万円あったものの、法人税等の支払いが292百万円、未払金の減少が196百万円、売上債権の増加が155百万円あったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により使用した資金は124百万円（前年同期比25百万円増）となりました。これは、主として有形固定資産の取得により75百万円、無形固定資産の取得により43百万円それぞれ支出したこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により使用した資金は89百万円（前年同期比211百万円減）となりました。これは、主として短期借入金の純増額が240百万円、自己株式処分による収入が24百万円あったものの、配当金を185百万円支払い、長期借入金を171百万円返済したこと等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は193百万円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	51,680,000
計	51,680,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月4日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,920,000	15,920,000	東京証券取引所 (市場第一部)	1単元の株式数 100株 完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない、当社 の標準となる株式
計	15,920,000	15,920,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年9月30日	-	15,920,000	-	495,875	-	400,875

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
山田 圭一	大阪府堺市南区	2,938	18.46
山田 満	大阪府堺市堺区	2,916	18.32
山田 雅之	東京都世田谷区	1,497	9.40
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	904	5.68
山田 米子	大阪府堺市堺区	659	4.14
野村信託銀行株式会社(投信口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	383	2.40
ピーピーエイチ マシューズ ジャパン ファンド (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	4 EMBARCADERO CTR STE 550 SAN FRANCISCO CALIFORNIA ZIP CODE:94111 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	355	2.23
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	315	1.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	249	1.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	157	0.98
計	-	10,379	65.19

(注) 1 上記の日本スタートラスト信託銀行株式会社、資産管理サービス信託銀行株式会社、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数は、すべて信託業務に係る株式数であります。

2 上記のほか当社所有の自己株式724千株(4.55%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 724,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,193,400	151,934	-
単元未満株式	普通株式 2,000	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	15,920,000	-	-
総株主の議決権	-	151,934	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が8株含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大研医器株式会社	大阪府大阪市中央区道修町 3丁目6-1	724,600	-	724,600	4.55
計	-	724,600	-	724,600	4.55

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,960,267	2,026,634
受取手形及び売掛金	2,490,467	2,646,176
製品	683,246	606,784
仕掛品	51,335	51,779
原材料	234,117	264,043
繰延税金資産	196,285	196,285
その他	63,889	81,968
貸倒引当金	13,318	13,318
流動資産合計	5,666,291	5,860,355
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	769,274	757,232
土地	1,197,677	1,197,677
その他（純額）	334,442	345,365
有形固定資産合計	2,301,394	2,300,274
無形固定資産	93,261	86,191
投資その他の資産		
投資有価証券	6,263	7,473
繰延税金資産	48,948	48,517
その他	136,022	139,312
貸倒引当金	19,000	19,000
投資その他の資産合計	172,234	176,303
固定資産合計	2,566,890	2,562,769
資産合計	8,233,182	8,423,125

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	898,830	850,901
短期借入金	210,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	318,423	268,341
未払法人税等	300,876	265,364
未払費用	292,102	315,477
賞与引当金	-	24,074
その他	430,883	240,383
流動負債合計	2,451,114	2,414,541
固定負債		
長期借入金	248,168	126,272
その他	32,089	13,791
固定負債合計	280,257	140,063
負債合計	2,731,372	2,554,605
純資産の部		
株主資本		
資本金	495,875	495,875
資本剰余金	486,720	505,204
利益剰余金	4,612,155	4,947,854
自己株式	94,558	87,758
株主資本合計	5,500,192	5,861,175
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	565	1,344
評価・換算差額等合計	565	1,344
新株予約権	1,052	6,000
純資産合計	5,501,809	5,868,520
負債純資産合計	8,233,182	8,423,125

(2)【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	3,683,187	3,953,141
売上原価	1,805,898	1,927,298
売上総利益	1,877,289	2,025,843
販売費及び一般管理費	1,205,621	1,246,930
営業利益	671,667	778,913
営業外収益		
受取利息	278	251
受取配当金	127	160
保険解約返戻金	3,245	-
倉庫移転負担金	3,176	-
受取補償金	1,665	3,336
その他	1,609	2,534
営業外収益合計	10,103	6,282
営業外費用		
支払利息	3,413	2,293
新株予約権発行費	-	2,222
その他	499	466
営業外費用合計	3,913	4,983
経常利益	677,857	780,212
特別損失		
固定資産除却損	890	2,633
特別損失合計	890	2,633
税引前四半期純利益	676,967	777,578
法人税等	240,774	256,424
四半期純利益	436,192	521,154

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	676,967	777,578
減価償却費	90,650	73,771
貸倒引当金の増減額(は減少)	56	-
賞与引当金の増減額(は減少)	18,913	24,074
受取利息及び受取配当金	406	411
支払利息	3,413	2,293
保険解約返戻金	3,245	-
固定資産除却損	890	2,633
売上債権の増減額(は増加)	36,971	155,709
たな卸資産の増減額(は増加)	100,752	46,090
仕入債務の増減額(は減少)	27,272	37,714
未払金の増減額(は減少)	132,602	196,793
未払費用の増減額(は減少)	9,211	23,390
その他	1,634	15,175
小計	698,609	574,379
利息及び配当金の受取額	332	336
利息の支払額	3,359	2,271
法人税等の支払額	291,453	292,341
営業活動によるキャッシュ・フロー	404,129	280,103
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	99,031	75,482
無形固定資産の取得による支出	6,540	43,628
保険積立金の解約による収入	7,135	-
その他	735	5,319
投資活動によるキャッシュ・フロー	99,171	124,430
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	200,000	240,000
長期借入金の返済による支出	213,618	171,978
配当金の支払額	322,535	185,484
自己株式の処分による収入	35,322	24,560
新株予約権の発行による収入	-	6,000
その他	499	2,403
財務活動によるキャッシュ・フロー	301,331	89,306
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,626	66,366
現金及び現金同等物の期首残高	1,911,220	1,960,267
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,914,846	2,026,634

【注記事項】

(会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

従来、当社は、有形固定資産の減価償却方法について、定率法(ただし、平成10年4月以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用していましたが、第1四半期会計期間より、定額法に変更しております。

この変更は、新製品上市に伴う設備投資及び既存製品の品質及び生産活動の見直しに関する中期的な施策の策定を契機として、減価償却方法について再度検討した結果、医療機器市場の安定的な需要の推移と市場の寡占化により安定的な需要を獲得しており、当社の有形固定資産は、今後も設備の稼働状況の平準化が見込まれることから、定額法が当社の企業活動をより適切に反映した減価償却方法であると判断したことによるものであります。

この変更により、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ14,337千円増加しております。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(賞与引当金)

前事業年度においては、業績に連動して従業員へ支給される賞与の確定額を未払金として計上しておりましたが、当第2四半期累計期間は支給額が確定していないため、賞与支給見込額のうち当第2四半期累計期間負担額を賞与引当金として計上しております。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
従業員給与手当	282,863千円	292,629千円
賞与引当金繰入額	16,064千円	20,077千円
退職給付費用	8,410千円	7,925千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	1,914,846千円	2,026,634千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-千円	-千円
現金及び現金同等物	1,914,846千円	2,026,634千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月15日 取締役会	普通株式	323,058	43.00	平成25年3月31日	平成25年6月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	177,462	11.75	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月14日 取締役会	普通株式	185,455	12.25	平成26年3月31日	平成26年6月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	182,344	12.00	平成26年9月30日	平成26年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業は、医療機器等の製造販売及びこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	28円96銭	34円38銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	436,192	521,154
普通株主に帰属しない金額	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	436,192	521,154
普通株式の期中平均株式数(株)	15,063,833	15,159,962
(2) 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	28円73銭	34円28銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	118,933	44,575
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	平成26年5月14日取締役会決議 第6回新株予約権(2,000個) 普通株式200,000株 なお、概要は以下のとおりであります。 新株予約権の行使期間 自平成27年7月1日 至平成34年6月30日 発行価格 3,000円 資本組入額 1,500円

(重要な後発事象)

(株式分割)

当社は、平成26年10月31日開催の取締役会において、株式分割について決議いたしました。

1.株式分割の目的

投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家層の拡大及び株式の流動性の向上を図ることを目的とし実施するものであります。

2.株式分割の概要

(1) 分割の方法

平成26年11月17日を基準日とし、同日の最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたします。

(2) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	15,920,000株
今回の分割により増加する株式数	15,920,000株
株式分割後の発行済株式総数	31,840,000株
株式分割後の発行可能株式総数	103,360,000株

(3) 分割の日程

電子公告掲載日	平成26年11月1日
基準日	平成26年11月17日
効力発生日	平成26年11月18日

3.1株当たり情報に及ぼす影響

前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における(1株当たり情報)の各数値はそれぞれ次のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり純資産額	172円70銭	192円90銭
1株当たり四半期純利益金額	14円47銭	17円19銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	14円35銭	17円14銭

(自己株式の取得)

当社は、平成26年10月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項を決議し、下記のとおり取得いたしました。

1.自己株式の取得を行った理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため。

2.取得の内容

(1) 取得する株式の種類	当社普通株式
(2) 取得する株式の総数	200,000株
(3) 取得価額の総額	422,200千円
(4) 取得日	平成26年11月4日
(5) 取得方法	

東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付け

2【その他】

第47期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）中間配当について、平成26年10月31日開催の取締役会において、平成26年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	182,344千円
1株当たりの金額	12円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月2日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月4日

大研医器株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北 本 敏

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴 崎 美 帆

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大研医器株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第47期事業年度の第2四半期会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、大研医器株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

会計方針の変更に記載されているとおり、会社は、第1四半期会計期間より有形固定資産の減価償却の方法を変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。